

海外医師の受け入れ実績と国際的な教育活動実績

2004年以降、アジア太平洋消化器内視鏡学会 (APSDE)での消化器内視鏡のハンズオンとトレーニングコースを開始。当時学会教育担当として、タイのバンコク、ベトナムのハノイ・ホーチミンを中心にトレーナー3-5名、トレーニー20名前後で、2015年まで年1回開催。2014年11月にAPSDE会長に就任した後は、2019年8月までに、ミャンマーにて14回、ベトナムにて13回、タイのバンコクにて10回のトレーニングコースを開催。

新たに2017年からは、インドネシアやカンボジアにおいてもトレーニングコースを4回開催し、現在までに指導した総合計トレーニー数は、1,500名を超えた。トレーニングコースを通じての内視鏡医指導・育成活動のみならず、過去8年間は、発展めざましい東アジア諸国に着目し、タイ・マヒドン大学に本学の事務所を設立し、教員を派遣することでこれを対外連携の拠点として、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマーのメコン地区をはじめ、マレーシア、インドネシアなどASEAN諸国の多くの大学との教育・研究・医療技術修練に関する交流協定を締結した。その結果、交流締結大学からは非常に優秀な大学院生が本学に留学し、活発な研究活動を行ってきた。また多くの医療臨床修練医を受け入れ、東アジアの医療技術の進歩にも貢献してきた。

一方、これらの活動を更に効果的にするために、本学が主導して東大、京大を含む全国31大学をまとめたアジア内視鏡人材育成支援大学コンソーシアム (UCDELSA)及び6病院をまとめた病院コンソーシアム (HCDELSA)を設立し、オールジャパン体制の下に厚労省及び経産省のすすめる国際展開プロジェクトと連携することにより、国際協力を進めてきた。具体的には大学コンソーシアムに基づき、メコン内視鏡外科推進機構 (MESDA)、更には一般社団法人アジア医療教育研修支援機構 (AMETS)の設立を実現させ、アジア諸国への幅広い医療人材育成及び医療支援を組織化して強化した。

今後はこれらの組織を主軸に、国内大学コンソーシアム、病院コンソーシアム、更には海外との大学間協定に基づくスキームを活かして、アジア諸国はもちろん、ロシア、中東、北アフリカへの人的交流を深め、国際的に活躍する内視鏡人材の育成に努めることにより、国際貢献の推進が期待される。

APSDE：アジア23か国の専門学会からなる学会

AMETS：目的・・・主にアジア地域における内視鏡人材育成の促進

設立・・・2018年9月

会員・・・アジア内視鏡人材育成支援大学コンソーシアム (全国28大学)

アジア内視鏡人材育成支援病院コンソーシアム (9病院)

日本消化器内視鏡学会、日本内視鏡外科学会、日本病理学会、日本泌尿器内視鏡学会

日本呼吸器内視鏡学会、医療法人独立会員、研究会等独立会員

講師派遣活動実績：

- ・アジア太平洋消化器内視鏡学会 (APSDE) トレーニングコース (東南アジア：タイ、インドネシア、カンボジア、ベトナム、ミャンマー) 42回、受講者数1561名 (2016年～現在)
- ・MESDA (Mekong Endo-Surgery Development Association) トレーニングコース (タイ) 15回 (2016年～現在)、受講者数623名
- ・令和元年度・令和二年度 厚生労働省日露医療協力推進事業小児周産期分野 (小児内視鏡) の協力 (ロシア)、トレーニングコース2回、派遣講師：13名 (2019年～現在)
- ・平成30年度～令和元年度 厚生労働省日露医療協力推進事業 (消化器内視鏡・内視鏡外科分野) の協力 (ロシア)、トレーニングコース11回、派遣講師：52名 (2017年～2019年)